

京都市立芸術大学 第30回

留学生展

京都市立芸術大学 第30届留学生展
교토시립예술대학 제 30 회유학생전

The 30th International Students' Exhibition
Kyoto City University of Arts

制作者名 Name	作品題名 Title	サイズ Size 作品の技法/素材 Technique / Material 制作 Production Year
出身国 Nationality 所属専攻 Department	制作意図 Commentary	

沈楠 Shen Nan
シン ナン

木又寸木

H 145.5 cm × W 112 cm
紙本彩色/麻紙, 岩絵具

2019

中国 China
日本画 Nihonga
修士1

レイヤーが空間の断面と言えるなら。

劉信 Liu Xin
リュウ シン

「侍月」
京都市美術館 蔵 (縮尺 1:1.073 模写)

H 208 cm × W 122 cm
紙本彩色/墨, 金泥, 岩絵具, 和紙

2019

中国 China
日本画 Nihonga
修士1

「縁側から薄暮の空を見やる女性のすらりとした後ろ姿が美しい。女性は黒い紗の着物に波に兎文様の帯, 丸に虫喰銀杏の文様をあしらった団扇を持ち, 月の出を待っているようだ。画面上下を貫く柱により縦長画面が強調され, 空間の奥行を感じさせる。」—京都市美術館 図録より

蔡煜桐 Cai Yutong
サイ イクトウ

うすげ

H 72.1 cm × W 60.6 cm
紙本彩色/麻紙, 岩絵具

2019

中国 China
日本画 Nihonga
研究留学生

ストレスで髪が薄くなる人, シュシュに寝転んで夢を見る。

熊 晓 Xiong Xiao
ユウ ギョウ

Portrait #5
Portrait #7

H 91 cm × W 72 cm 2018
H 91 cm × W 65 cm 2019
キャンバスに油彩 / oil on canvas

中国 China
油画 Oil Painting
研究留学生

As a realistic painter, I started to work on portrait painting two years ago. These two works are my fifth and seventh portraits. The creative materials were photos taken on a mobile phone. To highlight the theme, I gave up to paint the background. The images of the works have a slight deformation near the edge as the original photos were taken from the wide-angle camera of the mobile phone. I would not define the correctness of this deformation, but this phenomenon does reflect the age of the works on a certain extent.

彼の作品は一貫した写実表現。かつては風景画を中心に描いていたが、約2年前の自画像制作をきっかけに、人物の描写を磨くようになった。

中国出身。オーストラリアへの留学を経て、現在は京芸の大学院で制作をする彼。その経験の中で、自分から見る欧米人は見分けが難しく、また欧米人から見ると特に中国・韓国・日本の人は見分けが難しいことを実感する。しかし中国人である彼には中国・

韓国・日本の人が、なぜか分からないが区別できる。我々は他者の何を見て個人を認識しているのか。性別や国籍をはじめとする特徴はどこで判断しているのか。

自身やクラスメイトのポートレート制作で写実表現を追求するとともに、彼はこの疑問を「描く」ことで検証している。

(池田佳弥、長谷川夏実、松浪千紘、伍粵梓)

Natalia Brzezińska
ナタリア ブジェジンスカ

" "

H 167 cm × W 98 cm
油彩 / oil painting

2019

ポーランド Poland
油画 Oil Painting
交換留学生 /
ポズナニ芸術大学 (UAP)
Exchange Student
University of the Arts Poznan

Concept: Shape assigns things a definition. An artificial understanding agreement, on the basis of which man defines the world straightforwardly. For this reason, I want the viewer not to focus on defining and naming the form presented by me, because this process will be a duplication of previously developed patterns. I would like planes and shapes to create a synthetic image for the viewer, bypassing the attempt to understand and name.

ポーランドのポズナン芸術大学から交換留学で来ている彼女。好奇心が強く、油画専攻でありながら様々な素材での制作を試みる。初期は油画で静物や風景、人物を描いていたが、その後陶器や金属、布、顔料などを用い、平面や立体に幅広く挑戦してきた。素材を組み合わせることは少なく、それぞれの素材を生かしつつ個別の作品を生むなかで、徐々に抽象的な作品も制作するようになった。しかし自分の作

りたいものとはズレを感じていた。今回の作品は抽象性から離れた新しい試みの第一歩なのである。

普段からよく写真を撮り、色味やコントラストを変えたり、写真を切ったり組み合わせたりする彼女。今回の作品はそれと似たプロセスで制作された。特に重要なのは「空間 (space)」と「形 (shape)」。余白にも、画中のフレームにも、絵の具の垂れる跡にも意味があるのだ。

(野津果音、松浪千紘)

解放 Xie Fang
カイ ホウ

放心、彼岸

H 224cm × W 135 cm
油彩他/油絵具, アクリル絵具, シナベニヤ合板

2019

中国 China
油画 Oil Painting
交換留学生/
中央美術学院 (CAFA)
Exchange Student
Central Academy of Fine Arts

彼女の作品は、複数の小作品群とキャンバス枠の一部がジグソーパズルのように組み合わせることによって1つの大きな画面になる様に構成されている。

小作品群は植物や動物がモチーフとして描かれている。植物や動物は、日本画の琳派風の緻密な描写と子供の落書きのようなラフな描写でそれぞれ描かれ、画面内に混在している。

それらがパズルのように組み合わせることで1つの大きな画面で見た時に、隣り合う小作品のキャンバス同士が一方ではリンクし、一方では切断されている様な印象を観賞者に与える。

また本来作品と空間を切断する役割を持つキャンバス枠が画面内にあることで、それぞれのキャンバス同士がリンク・切断し合うイメージをさらに想起させる。

パズルは彼女が日本に来てからの日常を投影する様に組まれている。画面内の樹木の枝はパズル同士を繋げる「糸」の役目を果たすとともに、現実世界の学校周辺の地図に重なるように描かれ、彼女の学生生活での通学路が表現されている。

(大西夏生、岡部滯)

曹多惠 Cho Dahye
ゾ ダエ

Garden of Fragment ~破片園~

「懐かしさ」

H 105 cm × W 50 cm

「愛しさ」

H 85 cm × W 35 cm

コラージュ, 刺繍/
布, 写真, 紙, 糸

2019

韓国 South Korea
彫刻 Sculpture
交換留学生/
韓国芸術総合学校 (K-Arts)
Exchange Student
Korea National University of Arts

Old things and past times remain on the ground of the heart, and fade with nostalgia and affection. Although I can only see part of the time that each thing has, the appearance of the fragments is like a garden in my heart.

古いもの、古い時間は心という地面に残り、懐かしくて愛しく色褪せて行く。自分が見られるのは物それぞれが持つ時間の一部に過ぎないけれど、その破片たちが集まっている姿はまるで心の中の庭園みたいだ。

彼女は韓国でデザインを勉強してきたが、京芸の彫刻専攻に来てから、改めて自己と向き合い新たな表現を探求している。

今までとは異なる制作プロセスに悩む中、京都の伝統的な雰囲気や町並みに触れ、「古いもの」が好きだという自らの思いを起点にしようと考えた。

「古いもの」を前にした時、彼女はその対象の時代や国、歴史を知らずとも、なぜだか懐かしさを覚える。

それは、「知らないけれどどこか知っている」感覚だという。

彼女が感じたこの様な感覚を対象物の一側面として物理的に切り取り、それらを集めて新たな風景を構築していく。

この風景の中には時代や国の異なる様々な断片があり、そのうちの1つには私達にも馴染み深いものがあるかもしれない。

彼女が作り出す「知らないけど知っている風景」は、私達にとっての「知っているけど知らない風景」になり得るのだ。

(張瑜芳、大熊夏実、大西夏生)

Gaëtan Bas

ガエタン バ

“Samebito” 鮫人

H 70 cm × W 80 cm × D 20 cm

成形, 造形

polyurethan foam, plaster, fabric,
glass ball, shark tooth

2019

フランス France

彫刻 Sculpture

交換留学生 /

国立高等装飾美術学校

(ENSAD / アールデコ・パリ)

Exchange Student

École nationale supérieure

des Arts Décoratifs

The Samebito is a creature that appears in "The Gratitude of the Samebito", a short story by Lafcadio Hearn.

Tōtarō meets the Samebito one day on a bridge.

He has been expelled from the sea by his former employer Ryūjin.

Tōtarō takes pity on the creature and allows it to live in a deep pond in his garden.

Meanwhile, Tōtarō has been seeking a bride and eventually falls in love with a beautiful woman he sees at a female pilgrimage at Mii-dera.

He becomes deathly sick with grief, however, on learning that her family requires a betrothal gift of ten thousand jewels for her hand in marriage.

When the Samebito learns that his master is on his deathbed, he begins to cry tears of blood which become precious rubies when they hit the ground.

Through the Samebito's tears, Tōtarō eventually wins the hand of the woman with whom he is infatuated.

When he has finished weeping, the Samebito is also pardoned by the dragons.

This work is a new piece for my sculpture-series about mythology and trans-humanism.

彼はフランスにあるフランスの国立高等装飾美術学校 (ENSAD) で彫刻やセットデザインを学んでいる。本作品のタイトルは「鮫人」である。古代ギリシャのトルソーを主体としながら、シュモクザメの頭部を組み合わせた立体作品である。像の一部は苔が生じたような質感になっており、これらは時の経過を表現している。異なる素材を組み合わし、素材の持

つイメージを対比させてきた。例えば自然と人工や、生と死についてである。作品には海を連想させる貝や珊瑚などを用いている。

これらの重層的なイメージは、彼独自の世界観を生み出している。

(樋口絵里香、瀬田美晴、藤松佳那)

Jordan Edge

ジョーダン エッジ

Material Phonetics

H 250 cm × W 100 cm × D 100 cm

黒色の透明ラテックス, 透明なシリコンチューブ, エアバルブ, 送風ファン, スピーカー 他電子機材

black transparent latex, clear silicone tubing, air valve, blower fan, speaker driver, custom electronics

2019

イギリス U.K.

彫刻 Sculpture

交換留学生 /

ロイヤル・カレッジ・オブ・アート (RCA)

Exchange Student

the Royal College of Art London

A sonic sculpture embodying the fundamental phenomena of the voice.

The breathing latex functions as an enlarged (to scale) version of the acoustic vocal tract. Frequencies taken from Japanese phonetics and vowel sounds are played through the material as it expands and retracts.

To deform sound through material existence, a physical representation of our main communicative system being shaped through varied perspectives and experiences. Material phonetics represents a human function, breathing and vocalising in an abstract form.

彼は声をはじめとする音を抽象化することに焦点を当て、制作している。彼自身、日本語がわからないために言語を音として認識しているという観点から、声帯から音が出るイメージを、布などを用い造

形するという。サイズは 150 × 80 で、体の中で起こっていることをわかりやすく認識できるよう実際よりも大きく作っている。

(駒優梨香、山西夏美)

刘倩 Liu Qian
リュウ セイ

「？」

H 42cm × W 60 cm
油性木版画, 色刷り/和紙, 絵具
2019

中国 China
版画 Print Making
研究留学生

ある場所で生活すると、そこでの問題に必ず直面する。問題があれば、芸術は生まれるはずだと思います。インターネットの世界の中でニュースを見た時、人が野次馬に乗って、自分の考えと判断はどこにあるのか？人が選択に向かう時の状態を表現したいです。

Camille Boyer
カミーユ ボワイエ

Flower Game

各 H 21 cm × W 16 cm (16点1組)
シルクスクリーンプリント/紙, 絵具
Screen Printing / Paper ,Ink

2019

フランス France
版画 Print Making
交換留学生/
国立高等装飾美術学校
(ENSAD / アールデコ・パリ)
Exchange Student
École nationale supérieure
des Arts Décoratifs

During these few months in Japan, new landscapes offered themselves to me, and I discovered a new universe that made my perception of the world grow. I wanted to appropriate all these new things through a medium that I discovered in Japan : The Hanafuda cards. I recreated a new version of the cards, with a new graphic style applied to Japanese symbols, all printed in screen-printing.

日本の自然や動物に興味を持ち、ドローイングをしていた。
そこで、12月折々の日本の花と動物が描かれた花札に出会い、そこから日本の伝統的文化や歴史的背景について学んでいる。

今回の作品は、花札をモチーフとしたシルクスクリーンプリントの版画作品で、金、青、赤の3色で表現している。金色の表現は、ホットバインダー(接着剤)を使用して、箔を貼り付ける箔印刷である。

(宮木奈緒、豊田いずみ、中平志穂)

Zuzanna Kamińska
ズザンナ カミンスカ

We're going school /
idziemy do budy

H 114 cm × W 39 cm
シルクスクリーンプリント/紙, 絵具
screen printing, mixed media

2019

ポーランド Poland
版画 Print making
交換留学生/
ポズナニ芸術大学 (UAP)
Exchange Student
University of the Arts Poznan

"We're going school" is a quick visual story about students in a classroom. It contains 4 scenes, basic lesson, PE, art class and when the bell rings . The theme is how education reflects on building a society and individuality. The original polish title is a colloquial phrase, "Buda" means dog kennel, shed, trashy building, what in this context refers to school.

本作品のテーマは「社会を形づくる」である。
幼さをイメージさせるカラフルで小さなドットを子ども一人一人にみたくて、学校での子どもたちの様子を表わす。そのドットで1つ目がクラスの授業、2つ目が体育、3つ目が美術、4つ目が放課後という幼少期の4つの過程をシルクスクリーンで表現している。
ポーランド出身の彼女はもともと学校が好きだったが、点数で評価されてしまうという学校の教育の仕

方に疑問を持った。ポーランドと日本は移民が少ないことや普通のくらしぶりに共通点があると感じており、また子どもの教育方法などが似ているととらえている。そこで人間形成に影響を与える幼少期の教育に注目し、子どもの教育について考えることで自己を形成するものへの理解を深めたいと考えている。

(池田佳弥、藤松佳那)

張 翯慧 Zhang Xiao Hui
チョウ ショウケイ

《部屋》

映像/
ストップモンション・アニメーション
2019

中国 China
構想設計 Concept and Media Planning
修士1

部屋から出て行ったストーリーです。このストップモンションーは初めての試みです。私の以前の経験と関係があります。怠惰と悪い感情から逃げる考えを表現したい。

朱 艺然 Zhu Yi Ran
シュ ゲイゼン

10月21日 17時

映像
2019

中国 China
構想設計 Concept and Media Planning
研究留学生

引っ越してから一年以上も過ぎた。以前に四年半住んでたマンションを通った時、体が記憶があるように無意識的にその家に帰ろうとした。居る場所は、長年、僕らの生活を静かに染み込む。別れるはとても悲しいこと。物事は無常である。けれども、人々は懐かしく過去を思い出す。それは、長い年月付き合ってくれていたものが、私だち自身を作ったものなんだから。

徐 逸文 Xu Yiwen
ジョ イツブン

其中味（裏の味）

映像/ 3D プリント, CG
2019

中国 China
構想設計 Concept and Media Planning
研究留学生

「裏の味」、リキュールのブランディングデザインです。名著「紅樓夢」の文化や日本酒の文化を融和し、古代の中国の清風のイメージを日本酒のブランドに活用して、消費者が味わえながら、「紅樓夢」の文化を体験できることを目指します。本作は茜色の漆を塗り、良質な木を選ぶのにより伝統な美しさを保ちながら、3DプリントやCGなどの新しい技術を利用して、現代技術と伝統美の融和の作品としております。

Inari Sirola
イナリ シロラ

There's nothing in my head
私の頭の中に何も無い

H 180 cm × W 170 cm
ビデオ (アニメーション), 木材に描画
video animation, acrylic paint on wood

2019

フィンランド Finland
構想設計 Concept and Media Planning
交換留学生/
ロイヤル・カレッジ・オブ・アート (RCA)
Exchange student from
the Royal College of Art London

"There's nothing in my head" is a reflection on identity and assessment of self worth.

彼女はアニメーションの仕事を経て、現在 RCA の大学院に通っている。
今回の展示ではアニメーションとペインティング両方で同じキャラクターを描いている。彼女は自らの

中にあるアイデンティティやジェンダーに関する潜在意識をキャラクターに落とし込んでおり、作品中のキャラクターは一見してユニークだが、どこか毒のある側面を持ち合わせている。

(佐原真央子、長谷川夏実)

林 婷 Lin Ting
リン テイ

gift

H 15 cm × W 20 cm
デジタイザー, リソグラフ/紙
2019

中国 China
ビジュアル・デザイン Visual Design
修士2

「gift」は人間関係に人びと繋がっている。「gift」をテーマにして、Art Book をかたちにして、自分の考えを伝える。

張 仲妹 Zhang Zhong Mei
チョウ チュウマイ

色彩豊かな京の路を巡りゆく

H 50 cm × W 100 cm
プリント/紙

2019

中国 China
ビジュアル・デザイン Visual Design
研究留学生

日々の暮らしを超えたところにある「非日常」は祭りである。その中に、過去から現在に通じる美意識を反映している。今年 1150 周年の祇園祭を体験し、古い文化と現在生活のつながりを探した。自分が京の道を歩き、旅行者の視点で祇園祭を楽しむガイドブックを制作した。

李 嬌 Li Jiao
リ キョウ

幼稚園のデザイン

H 118.9 cm × W 84.1 cm

2019

中国 China
環境デザイン Environmental Design
修士1

肖 力三 Xiao Li San
ショウ リーサン

体験型臨時店舗設計

H 50 cm × W 40 cm × D 20 cm

2019

中国 China
環境デザイン Environmental Design
修士1

『出会いの場、大きなテーブルを芸祭に』
というテーマで構想した、環境デザイン有志による京都市立芸術大学・芸大祭 2019 での模擬店である。展示では、実施案及企画案を紹介する。

封 懿航 Feng Yi Hang
フウ イコウ

FOBAN FUN

H 42 cm × W 59.4 cm
ポスター

2019

中国 China
環境デザイン Environmental Design
修士1

新時代「令和」になる際に、交番の新しいデザインを考えて見る。

柳 濟閔 Ryu Je Yoon
リュ ジェユン

象徴の自画像

H 65 cm × W 40 cm × D 40 cm

手びねり/陶土

2019

韓国 South Korea
陶磁器 Ceramics
修士 1

今回は、今までの作品とは違う自分の純粋な感情を作品に盛り込もうとした。その中でも、ネガティブの感情を象徴するオブジェクトで構成された造形物を制作した。

韓国出身の彼は京芸研究留学生を経て、現在は大学院に所属し陶磁器を学んでいる。

日本に来てからは韓国の伝統文様の再解釈や、韓国・中国・日本の昔話の研究を通じて陶のオブジェを制作している。

今回の留学生展の作品は、異なる文化圏での生活を通じて変化した自分の内面に向き合うことをテーマにし、仮面、犬歯、欠損した右腕、「FOUNTAIN」、頭蓋骨…全ての造形に彼自身の物語が含まれている。

(木田陽子)

Savvas Theofanous
サヴァス セオファヌス

Chapter Eleven

2点
デジタルペイント, 鉛筆, アクリルカラー
black paper and digital print

2019

キプロス Republic of Cyprus
陶磁器 Ceramics
交換留学生/
ロイヤル・カレッジ・オブ・アート (RCA)
Exchange Student from
the Royal College of Art London

The absurdity of my childhood
An endless and infinite repetition
No practical cause filling my days.
A secret garden, the sun unable to reach it,
It became my sanctuary.
Devoted to an endless procedure.
A child whose cause was to have a garden
Full of flowers and plants,
Impossible, no natural light.
Persistence would never stop taking care of the garden
It would never grow though.
Like a modern Sisyphus devoting myself to a procedure
No result, but self-consciousness
The repetition of nothing is actually everything.

キプロス出身で現在は RCA の大学院に在籍しプリントを専攻しているサヴァスさんは、陶磁器を勉強するために京芸に留学している。伝統が多く残る京都に魅力を感じており、金閣寺などの古社寺を好んでいる。

5年前、日本を訪れた際に生花を知り、欧米のフラ

ワーアレンジメントとは異なった、シンプルながらも彫刻のような感覚に魅了された。

今回はインスピレーションを受けた一枚の生花の写真を参考に「花」「紙」「器」の三つの要素に分解し、その写真をプリントした「紙」に手を加えることにより自分なりの解釈を加えて作品を制作している。

(日野沙耶, 福角春奈, 木田陽子)

周 逸喬 Zhou Yi Qiao
シュウ イツキョウ

睥睨 へいげい

H 100 cm × W 60 cm × D 50 cm (2点)
乾漆 / 漆, 梨子地粉, 卵殻

2019

中国 China
漆工 Urushi Lacquering
修士 1

中国広東省出身の彼女は、北京の総合大学工芸美術科で美術を学び、京芸には 2017 年に研究留学生として、現在は漆工の大学院に所属し、食に関する文化の違いをコンセプトに日々制作をしている。今回の展覧会では漢方で使われる霊芝というキノコの一つをモチーフにした乾漆作りの立体作品を制

作。タイトルの「睥睨」はじろりと見下ろすという意味。霊芝は古来中国で食べたら神になれると言い伝えられていた食べ物である一方、日本ではあまり馴染みがない事に異文化のギャップを感じながら、人によって神格化されるという事をテーマに、その霊芝が私達を見下ろしている様を表現した。

(金田美咲、福住春奈)

賀 蘭 He Lan
ガ ラン

バーチャルワールド

H 200 cm × W 150 cm
漆絵 / 木, 麻布, 漆, 貝, 卵殻, LG 粉, 銀粉
2019

中国 China
漆工 Urushi Lacquering
研究留学生

人はなぜ生きているのかずっと考えている。しかし、私の目線から、世の中の人々は、毎日同じ作業服を着て、同じ仕事を繰り返して、冷たくてしびれて、スマホやパソコンの後ろに隠れてネットで自分の人生を営んでる。スマホの電池がなくなったら、自分が病気になったように不安だ。そこで、私は思いついた。もし、私たちが住んでる世界がバーチャルだったら？

Clara Champsaur
クララ ションソール

Untitled

H 32 cm × W 39 cm
H 42 cm × W 46 cm
漆絵 / 木, 漆 wood, urushi

2019

フランス France
漆工 Urushi Lacquering
交換留学生 /
国立高等美術学校 (ENSBA)
Exchange Student
École nationale supérieure
des Beaux-arts

Urushi lacquering painting technique on two dimensional wood boards .using this process of layering, I tried to integrate the urushi technique in my painting process.

2次元の木製ボードでの漆塗りの技法。この積層する過程を使用して、絵画技法に漆技法を統合しようと思いました。

国立高等美術学校 (ENSBA) に通う彼女は、写真や、ドローイング、版画など、様々な表現で作品を制作し、阿部正直の写真にインスピレーションを受けた作品なども制作している。

彼女は日本美術、特に日本画に興味があり、日本にやってきた。しかし、フランスでは知らなかった漆という素材に魅力を感じて、漆を専攻し、伝統技術を学びながら、漆に顔料を混ぜたり、基底材に和

紙を用いたりなど様々な表現を追求している。

今回は、木材の基底材に、顔料と漆を混ぜた材料を刷毛やヘラを用いて抽象的に描いた作品を展示する。普段から、鑑賞者それぞれの観点で作品を見てほしいという思いから、タイトルをつけていない。

今後、フランスでも漆を用いた制作活動を続けていきたいと言う。

(日野沙耶、大里真瑛子)

金 旼秀 Kim Min Soo
キム ミンス

翠雨

H 93 cm × W 134 cm
浸染, 刺繍 / 絹, 植物染料, 綿
2018-2019

韓国 South Korea
染織 Dyeing and Weaving
修士2

"ハナサキにアメのニオイがする ...。そろそろだね。"

そして輝く緑色の葉っぱは、ほのかに甘い香りで織られた羽になった。

呉 聆雪 Go Ryosetsu
ゴ リョウセツ

氷

H 200 cm × W 40 cm
友禅染 / 絹, 染料

2019

中国 China
染織 Dyeing and Weaving
修士1

この作品のインスピレーションは冬の雪が終わった時の氷柱だ。
氷柱の携帯と特徴を抽象的な図案で表現した。氷の周りは氷の形態と色を
影響させている。画面の細部に風, 雪, 落葉, 光, 水の流れなどの要素を
入れて, 豊かな世界を表現させた。

易 以柔 Yih Yi Roh
イー イロウ

山の姿

H 50 cm × W 70 cm (3点)
草木染, 藍染, 緋 /
麻糸, 植物染料 (枇杷, 刈安), 藍

2019

台湾 Taiwan
染織 Dyeing and Weaving
研究留学生

山はいつもそのままの山
空気, 光, 時間は見えない
山の模様は変わっていく
空気, 光, 時間は見えてくる

關 正玫 Kuan Cheng Wen
クワン チェンウエン

虎爺

H 103 cm × W 225 cm
ろうけつ染 / 綿布, 反応染料, 蠟
2019

台湾 Taiwan
染織 Dyeing and Weaving
研究留学生

虎爺は私の生まれ土地台湾の神である。虎爺は信仰の力により妖魔を退治
し成仏させるをイメージした物語と自分の思いや感じたものを入れた作品
である。

冯 相涵 Feng Xiang Han
ヒョウ ソウカン

暮雪

H 150 cm × W 80 cm
平二重織 / 羊毛

2019

中国 China
染織 Dyeing and Weaving
研究留学生

町の暮雪からとった色をイメージとして, ラグの作品を作りました。

馬 寧
バ ネイ

Ma Ning

「悪女たち」

H 90 cm × W 120 cm
ポスター

2019

中国 China
 芸術学 General Science of Art
 交換留学生／中央美術学院（CAFA）
 Exchange Student
 Central Academy of Fine Arts

中国のウルムチ出身で、北京にある中央美術学院に通っており、交換留学生として滞在している。

中央美術学院では日本美術史を専攻しており、主に鎌倉から室町の絵巻物について調査している。

今作品は、彼の卒業論文の骨組みとなるような展示となっている。

賢愚経、華嚴宗祖師絵伝、道明寺縁起、白蛇伝などの、物語の展開に沿って変身する女性の結末、それを取り巻く女性と仏教の関係から始まり、日本、中国、韓国の4つの絵巻物や説話に共通するモチーフが、国を超えていく中で、どういった相違点、共通点を持つのかについて現段階で研究してきた内容をまとめた作品となっている。

（瀬田 美晴）

執筆協力（パンフレット掲載文）：

日野 沙耶（院2回生，保存修復専攻）

伍 粵 梓（院2回生，彫刻専攻）

張 瑜 芳（院2回生，構想設計専攻）

大里真瑛子（4回生，日本画専攻）

瀬田 美晴（4回生，日本画専攻）

藤松 佳那（4回生，日本画専攻）

岡部 滢（4回生，油画専攻）

福角 春奈（4回生，油画専攻）

宮木 奈緒（4回生，油画専攻）

池田 佳弥（4回生，彫刻専攻）

中平 志穂（4回生，彫刻専攻）

豊田いずみ（4回生，版画専攻）

木田 陽子（4回生，陶磁器専攻）

山西 夏美（4回生，漆工専攻）

佐原真央子（4回生，漆工専攻）

野津 果音（4回生，漆工専攻）

駒 優梨香（4回生，染織専攻）

長谷川夏実（4回生，染織専攻）

樋口絵里香（4回生，染織専攻）

大熊 夏実（4回生，総合芸術学専攻）

松浪 千紘（4回生，総合芸術学専攻）

金田 美咲（4回生，総合芸術学専攻）

大西 夏生（単位履修生）

今回は、博物館学実習の一環として
 畑中英二教授指導のもと、一部の出品者とその作品についての紹介文の執筆に取り組みました。